

令和2年度 第1回府中市スポーツ推進計画検討協議会

日時：令和2年6月25日（木） 午後2時から

開催：Web会議（CISCO Webex Meeting）

出席者：

<委員>

朝日マヤ、植竹照雄、植田悠太、佐藤美枝子、田口祐貴、高峰 修、本田純子、吉松久美子

（五十音順、敬称略）

<事務局>

教育長（浅沼）、文化スポーツ部長（関根）、スポーツ振興課長（市ノ川）、スポーツ推進係長（西井）、スポーツ振興課職員（及川、高森）、株式会社創建（大谷、本多）

欠席者：

<委員>

小島壽一郎、佐藤光宏（五十音順、敬称略）

—委嘱状の伝達—

○事務局

定刻過ぎましたので始めさせていただきます。

皆様、本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は府中市スポーツ推進計画検討協議会の事務局を務めさせていただきます、スポーツ振興課スポーツ推進係長の西井と申します。後ほど委員互選により、本協議会の会長が決まるまでの間、議事の進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、1の「委嘱状の伝達」でございますが、本来ならば浅沼教育長から委員の皆様お一人お一人にお渡しをするところでございますが、本日はWeb会議開催のため後日郵送を予定しております。これをもって委嘱状の伝達に代えさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

次に次第の2「教育長挨拶」を浅沼教育長より申し上げます。

—教育長挨拶—

○事務局

次に、3「部長挨拶」を関根文化スポーツ部長より申し上げます。

—部長挨拶—

○事務局

ここで本日の出席状況をご報告いたします。本日は定員10名のうち8名の委員にご出席を頂いております。配付資料については後ほど改めて確認をいたしますが、資料1及び2をお手元にご用意ください。

府中市スポーツ推進計画検討協議会規則第4条の2項に基づく過半数のご出席を頂き、定足数を満たしておりますので、本日の会議が有効に成立することをご報告申し上げます。

なお、府中市体育協会選出区分から選出されました小島委員、府中市立小中学校長会選出区分から選出されました佐藤光宏委員に関しましては、ご都合により欠席のご連絡を頂いておりますので、ご報告を申し上げます。

次に、次第4「委員・職員自己紹介」でございますが、第1回目の集まりでもございますので、委員の皆様及び事務局職員の順に、簡単に自己紹介をしていただき、その後引き続き、5の「会長・副会長の選出」の順に進めさせていただきたいと思っております。

異議がございましたら挙手をお願いいたします。

(「異議なし」の声)

○事務局

異議なしのお声を頂きましたので、そのように進めさせていただきたいと思っております。

—委員・職員自己紹介—

(※ 委員による自己紹介)

○事務局

続いて事務局職員を紹介させていただきます。

(※ 事務局による自己紹介)

—会長・副会長の選出—

○事務局

次に「会長・副会長の選出」でございますが、当検討協議会設置規則の第3条の1項では、委員の互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。

(「事務局一任」の声あり)

○事務局

事務局一任ということでご意見がございましたので、事務局案といたしましては、会長に選出区分の学識経験者で、明治大学政治経済学部において主にスポーツ社会学の教授として

教鞭を取られるほか、さらに日本スポーツ社会学会で理事を務められる等幅広い分野においてご功績を残されておりますことから、高峰委員に会長として本協議会を代表し、会務の総理をお願いしたいと考えております。

また、副会長には選出区分「団体代表」で、府中市スポーツ推進委員会に長年携わり、同会の副会長として本市のスポーツ行政に豊かな知識と経験をお持ちであることから、吉松委員に本協議会の副会長として、会長を補佐し、円滑な会の運営にご尽力を頂きたいと考えております。

以上の理由からお二人に会長、副会長の職にご就任いただくことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○事務局

それでは、高峰委員、吉松委員、それぞれ改めて一言ずつ御挨拶をお願いいたします。

(※ 正副会長による挨拶)

—諮問書の伝達—

○事務局

会長、副会長が決定いたしましたので、以後の進行については高峰会長をお願いしたいと存じますが、その前に次第の6「諮問書の伝達」につきまして、浅沼教育長から高峰会長にさせていただきます。

なお、本来であれば手渡しをさせていただくところですが、本日はWeb会議のため教育長より読み上げをさせていただき、諮問書は後日郵送させていただきますので、ご承知おきください。

(※ 教育長から会長に諮問書の伝達)

(※ 教育長、公務のため退席)

○事務局

高峰会長、この後の進行をよろしくお願いいたします。

○会長

それでは、会を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

—会議の公開について—

○会長

次に今日の議事の7、「会議の公開について」を事務局より説明をお願いいたします。

(※ 事務局から会議の公開について説明)

○会長

事務局から説明がありました協議会の進め方について、合計6点、項目ごとに確認をしていきたいと思います。

1点目は、会議を公開にするか非公開にするか。事務局案としては公開ということです。

2点目は、傍聴者に対し、当日の資料を配布する、または回収するに関しては、配布し回収する。

3点目は、傍聴者の人数については10名を目安にする。

4点目は、申込方法は電話で申し込んでいただくこととする。

5点目は、1回の会議は、2時間程度を目安とする。

最後に、会議開催ごとに前回の協議内容を確認するか。これは基本的に確認するというところでよろしいでしょうか。もしご意見あるようでしたら手を挙げていただいて、伺いたと思います。

○委員

協議会の開催については、市民の皆さんにどのように周知をしますか。

○事務局

「広報ふちゅう」、市のホームページで周知をします。

○委員

ありがとうございます。

○会長

よろしいでしょうか。その他いかがでしょうか。

○委員

議事録は、事前に配付していただいたものをよく読んで、訂正があればその訂正箇所だけ議論するという形でよろしいですね。

○事務局

おっしゃっていただいたやり方でよろしいかと思えます。

○委員

全文もう1回朗読してということはやめましょうということですよ。

○事務局

はい。よろしくお願いします。

○委員

分かりました。

○会長

その他いかがでしょうか。何かご意見はございますか。

ないようでしたら、事務局の案で進めるということによろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○会長

ありがとうございます。事務局はこの件について、他にございますか。

(※ 事務局から議事録への委員氏名記載について説明)

○会長

議事録に私たち委員の氏名を出すか出さないかということです。事務局案としては出さない方向でということですね。公開するものについては出さない方向でということです。これについていかがでしょうか。なるべく皆さんの多くの意見を頂いたほうがいいと思いますので、氏名を出さない方向で行きたいと思います。

—資料確認—

○会長

次に資料確認を事務局からお願いいたします。

(※ 事務局にて配布資料確認)

○会長

資料確認が終わりましたが、何かご質問、または不足している資料等はございますか。

1点確認しておいたほうがいいかなと思うのですが、傍聴のことで10名ということだったので、もし、この後の協議会もWebでやる場合は、どういうふうを考えればいいでしょうか。

○事務局

Web会議につきましては、接続できる人数の関係から、原則お一人程度と考えておりま

す。いつWeb会議になるかということも分かりませんので、原則は一般の会議室での開催で募集をかけていく形が基本になるかと思えます。今回のようにWeb会議でやるというのが分かっているときには、そういった形を取らせていただくこともあります。本日は第1回目ということで、まだ傍聴を許可するか否かも決められておりませんでしたので、今回募集はかけておりません。2回目以降につきましては、傍聴募集をかけていきたいと思っております。

#### —協議事項—

##### ○会長

ご質問等ないようですので、協議事項に移りたいと思います。  
それでは、事務局から説明をお願いいたします。

##### ○事務局

協議事項の1、スポーツ推進計画の進め方についてご説明申し上げます。

お手元に資料の4、スケジュール（案）をご用意ください。

本協議会は本日の第1回目以降、令和3年度にわたって全8回の開催を予定しております。当面は令和2年9月から実施を予定しておりますアンケートについて市民のスポーツへの意識を調査し、計画の骨子案の作成や、その骨子案の作成の確認を経て、令和3年9月中旬に予定している第8回にて正副会長から教育長に答申書を提出していただきたいと考えております。

事務局は答申書を基に計画案を策定し、令和3年11月から約1カ月間にわたってパブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントにつきましては、この計画案に対しまして市民の方から広くご意見を頂くための制度でございます。パブリックコメントを実施し、計画案に頂いたご意見等も反映させた上で、計画策定を目指す流れを考えております。

続きまして、裏面になりますが、「府中市スポーツ推進計画の策定にあたって」をご覧ください。こちらにつきましては、府中市スポーツ推進計画及び関連計画についてご理解を深めていただくことを目的に策定したものでございます。「1 計画改定にあたって」というところでございますが、府中市スポーツ推進計画につきましては、現行の計画を平成26年度に策定いたしまして、そこから8年間、令和3年度末でこの計画が終了することに伴いまして、次計画という形で策定をさせていただくものでございます。

この計画につきましては、市民1人1人がそれぞれの立場で自主的、継続的にスポーツ活動に参加できるよう、府中市が標榜しております「スポーツタウン府中の発展」につなげるための計画として策定しております。この2年間につきましては、現行計画の最後の2年間になりますので、現計画の振り返りやアンケート調査、そういったものを基に次期計画を策定いたします。

(2)にございますとおり、本計画は、府中市の総合計画の配下の計画でございます。府中市総合計画につきましては府中市の市政全般にわたる計画を立てているもので、その中の基本目標3の中に、「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」の(6)スポーツ活動の普及・

促進の中で、「スポーツ活動の支援」「スポーツ環境の整備」の2つの施策を掲げております。スポーツの生活化や全ての市民が積極的にスポーツ活動に取り組める拠点としての施設整備、そういったソフト、ハード両方にまたがった取組を推進しているところでございます。

さらに総合計画の重点プロジェクトの中では、「スポーツタウン府中の発展」を掲げ、ライフステージやライフスタイルに合わせ自主的、自発的にスポーツに親しむ、スポーツの生活化の定着を特に取り上げているところでございます。

もう1枚、「計画の位置づけ」というのが2としてありますが、現在の総合計画とスポーツ推進計画の関係性、また国や都、市のほかの関連計画との関係性を図示しております。

国・東京都におきましては、A3判の資料をご一読いただければと思いますが、こちらにつきましては創建から説明をお願いします。

#### ○株式会社創建

今、市からご説明のありました国や都の動向というところで、大きく4つの点について、要点をご説明させていただきたいと思っております。

まず1点目、参考資料の表面ですが、こちらはいわゆる国の計画である第2期スポーツ基本計画を上段に、下段には、府中市は東京都の中にごございますので、東京都の計画に当たるものの要点を記載しております。

まず、国の計画です。こちらが概要版という形で公表されているものになります。この中でポイントは左側のボックスに3点、まとめました。市民の、この場合は国民全員がスポーツに親しんでいくということもあるのですが、第2期のスポーツ基本計画においては、スポーツを楽しむとか、あらゆるスポーツの効果を「スポーツの価値」と表現して、スポーツをするだけではなくて、その枠を超えていろいろな分野と連携・協働していく、そのときにスポーツの価値を使っていくことが、1点目に掲げられています。

2点目は、そういったいろいろな分野と連携・協働していくことに対する指標、ベンチマークみたいなものも第1期の計画に比べてより多く示されており、どのように計画が進んでいるかという測り方を細かくしていったというポイントがございます。

3点目に、障害のある方のスポーツ振興ですとか、昨今スポーツはいろいろな分野で目立つようになってきたかと思うのですが、その成長産業化というような、ある程度経済と関連するようなところというのも、ポイントとして計画の中で書き込まれていたところでございます。

そういった計画を基に国の第2期スポーツ基本計画では4つの指針が掲げられていまして、スポーツを通して健康で生き生きとしたものにする、人生が変わるという1つの指針が掲げられており、また障害のある方、それから高齢で健康寿命を延ばしていくというような視点で、経済、地域の活性化に貢献する、スポーツが社会を変えろという指針がございます。

3つ目は、東京2020大会も視野に入れた議論だったとは思いますが、「世界とつながる」、そういったところでもスポーツの価値観が発揮できるのではないかという視点です。

4つ目は、これも東京2020大会に関連してなのですが「未来を創る」指針です。東京2020大会が今後開催されたとしたら、その後のレガシーを引き継いでいくことで未来を

スポーツ分野が創っていくということが、国の計画では掲げられています。

続きまして下段、東京都のスポーツ推進総合計画です。こちらは国の動きもある程度受けながら、東京都としてどういうことが計画として掲げられたかというところですが、イラストも使って見やすくなっていると思うのですが、大きく3つの政策目標というのが掲げられています。

1点目は、「スポーツを通じた健康長寿の達成」です。スポーツをして健康でいること、なるべく健康でいられる時間をなるべく長くというところですが、

2点目、政策目標というところでは「スポーツを通じた共生社会の実現」です。国の計画でもありましたが障害のある方ですとか、国籍、性別、年齢にかかわらず共生していく、そういった社会を実現するときにスポーツを通じてそういった社会を実現していくという考え方が目標の2点目に掲げられています。

3点目が、こちらの特徴的だと思うのですが、「スポーツを通じた地域・経済の活性化」という目標が掲げられています。特にトピックとして、2年ほど前の議論にはなるのですが、1つの目標に経済効果のようなものが掲げられております。スポーツを通して経済も活性化していくという視点がポイントとして出てきていたかなと思います。

2ページ目に続きます。2つのポイントですが、大きく2つありまして、資料左側のほうは、障害者活躍の議論が国のほうでも進められている中で、障害のある方のスポーツ活動推進プランというものが提示されたことです。資料右側はスポーツをする人の割合というのをスポーツ実施率というので、1つの指標として掲げていくものになると思うのですが、その実施率を向上するために具体的にどういうふうにアクションしていくかというものを、2点掲げられています。

まず左側からご説明させていただきます。こちらは「障害者活躍推進プラン」という障害のある方の6つの分野の計画を国が出したのですが、そのうちのスポーツ分野の計画の抜粋です。特にポイントになる点は下線を引いておりますが、先ほど申し上げたスポーツ実施率、週1回スポーツ実施率という指標に関しては、やはり障害のある方は健常者に比べると、まだ実施率が低い。その背景の中では障害がある方々のスポーツの実施環境が十分ではないですとか、また、学校を出た後に、なかなかハード、ソフト両面においてスポーツを継続するような環境が、十分ではないのではないかと考えられます。

また、スポーツというのはするだけではなくて見る、支えるという表現もあるのですが、見る機会、いわゆる施設のバリアフリー化みたいなのところも、あらゆる面で対応しきれているかという、まだまだこれから課題があるということが掲げられています。

資料下部は、具体的な政策ということで、過去のものにはなりますが、小・中・高等学校、いわゆる学校教育の中で障害のある児童・生徒のスポーツの実施環境を整備していくとか、障害のある人ができる拠点を地域に設けるとか、またイベント等々の観戦のしやすさを向上していく、こういったものが障害者のスポーツ推進プランの中では具体的なアクションということで示されていた状況です。

最後、資料右側に移りまして、障害の有無にかかわらず全般的なところにはなるのですが、スポーツ実施率向上のために具体的にどういうことをしていくかとなったときに、まず、そもそもスポーツとは何かというところで、1文目の書き出しのところで、スポーツというの

は楽しさや喜び、そういったものがスポーツの価値の中核にあることですか、スポーツを通して勇気や自尊心、友情の価値を実感する、また生きがいにつながっていく、そういうものだという考えを改めて示した上でスポーツをしていこうという普及啓発の部分というところも、改めて振り返りましょうということが掲げられていたところがポイントかなと思います。

この一番下の段落のところでは、年代、性別、障害の有無にかかわらず全ての人々が、まず地域社会との絆を深めるために、健康長寿社会、共生社会の実現に寄与させていくという点においては、重要だということが示されています。そういったところでスポーツの意義というものが改めて見直されたところかと認識しています。

また、実施率を向上していく、今回においては、府中市民の方でスポーツをよくしている人を増やしていこうという話です。これまで国、都でも議論されてきたところですが、ある程度のスポーツをやられている方というのは、ある程度続けられていたり、一旦離れていてもまたやろうというところもあるかとは思いますが、そもそも子どもの段階でスポーツから離れてしまって、関心が特にないという方の、特に子ども、若者で二極化というのが課題として掲げられたケースがございます。そういった関わってこなかった方を「無関心層」と表現されるかと思うのですが、そういった方へのアプローチで、障害がありスポーツをしていないというような方たち、そういったところに対しても施策を講じていくことで、実施率向上につながっていく。

そのためには、例えば3つの間、時間、空間、仲間、いろいろな場面できっかけを作っていくことで、総じてスポーツをする方を増やして、スポーツ分野の政策として盛り上げていく、そういった行動計画というのも掲げられています。

#### ○事務局

全体について今後の流れと、スケジュール感、計画策定に向けての進め方と、市の計画の位置づけ、国・都の動向ということでご説明をさせていただいたところです。

内容の検討につきましてはこの後もさせていただきますので、まずはこの資料の中にあることについてのご協議をよろしくお願いいたします。

#### ○会長

今、事務局及び創建からご説明がありました。1点は今後のスケジュールですね。会議日程も含めてです。もう1つは国と都、あと府中市の今までのスポーツ計画の類いのものの説明ということです。

これについてご意見、ご質問はいかがでしょうか。

協議会スケジュールですが、これは日付がもう入っていますけれども、フィックスということになるのでしょうか。

#### ○事務局

あくまで開催日につきましては予定でございますので、今後の皆様のご予定等を参考にまた決めていきたいと思っています。できれば週の早いところでの開催をさせていただければと思っております。第2回につきましては、今日の議題の最後に調整をさせていただければ

と思っております。

○会長

スケジュールに日付が入っていますが、あくまでも今の段階での予定ということです。

その他はいかがでしょうか。ご意見・ご質問はございますか。

○事務局

会長、もう1点補足してよろしいでしょうか。全8回という開催数で、今年度4回、次年度4回という形にさせていただいておりますが、進捗具合によっては若干その辺り変更になる可能性もありますので、ご承知おきいただければと思います。

○会長

今の情報も加わりました。特にご質問ございませんか。

(「ございません」の声)

○会長

次に協議事項の2「現行計画の評価・アンケート項目の検討」についてです。事務局、説明をお願いいたします。

○事務局

協議事項の2「現行計画の評価・アンケート項目の検討」についてご説明させていただきます。

お手元の資料5の1の「現行計画のふりかえり」をご覧ください。現行計画の振り返りでは、市で行っております事務事業評価を計画の指標といたしまして、府中市総合計画における目標の進捗管理を通じて評価をいたしました。その整理したものが記載してございます。

1の「分析評価」の結果を受けまして、2の「計画課題の整理にあたっての要点」にて計画課題のポイントを整理しております。

次に、資料5の1の「アンケート調査実施にむけた議論のポイント」及び資料5の2のアンケート「調査項目(案)一覧」をご覧ください。これらの資料は令和2年9月実施を指しておりますアンケートについてポイントを整理したものでございます。

府中市として考える「スポーツ」及び「スポーツタウン府中」の定義を明確にし、基本理念と基本視点を継承するか確認した上で、現行計画の体系に沿ったアンケート調査項目を整理するつもりでございます。

2のアンケート項目の検討につきましては、次の5点についてご協議を頂きます。

1点目、アンケートの対象設定を無作為抽出の市民2,000人及び市立小学5年生600人、中学2年生600人の1,200人とするということについてご議論を頂ければと思います。

補足といたしまして、市民2,000人とするのは人口26万人、市の人口は今26万

人程度なのですけれども、人口26万人に対して有効な数字であること、また小学5年生、中学2年生は東京都等の調査でも対象とされていることから選定しておる内容でございます。

2点目、eスポーツ、アーバンスポーツ等昨今話題に挙げられている新しいジャンルのスポーツに関する内容についても、アンケート項目に含めてよいかについてご審議いただければと思います。

3点目といたしまして、スポーツの誠実性、健全性、高潔性といった「スポーツ・インテグリティ」の視点をアンケート項目に含めてもよいか。

4点目、基本理念及び基本視点に変更が必要であるかないか。

5点目、新型コロナウイルス感染予防の新しい生活様式の考え方をアンケートにも取り入れていくか。

以上の5点につきましてご検討を頂ければと思います。

また、分析・評価の点につきましてもご意見があれば、ご意見いただければと思います。

#### ○会長

現行計画の振り返りと、今回これから行うアンケート調査、それについてのご説明がありました。何かご質問などございませんでしょうか。

#### ○委員

今後の議論のポイント案のところの「スポーツ・インテグリティ」について、もう少し簡単にご説明いただければなと思います。

#### ○会長

これについては創建から説明をお願いします。

#### ○株式会社創建

今、ご質問をいただいた点、議論のポイントとしては2点目、3点目に関わってくるのかなと思うので、ご説明させていただきたいと思います。

まず1点目、質問と前後していますが、eスポーツと言われるものは、いわゆるテレビやゲーム機器を使った形のスポーツで、今回のスポーツ推進計画の中で枠組みとして取り入れるかどうかという話です。

もう1点、アーバンスポーツとは、オリンピックの競技にもなっておりますが、いわゆるスケートボードですとか、インラインスケート等のストリートスポーツと言われるようなものの文化というのが、これまでの体育、スポーツの場面とは少し背景が異なってくるので、そういったものもスポーツという大きな枠組みの中で捉えていく、そういったところをアンケート項目の中でどう捉えていくかというのが、1つ目のポイントになってくるかなと思います。

最後に、ご質問いただいた「スポーツ・インテグリティ」ですが、背景としては、「スポーツというのは紳士である」という考え方の中で、いわゆるスポーツ関係の協会の中でのお金の流れですとか、そういった不透明な部分とか、不誠実な部分が問題視されていることから、

スポーツにおける誠実性、健全性、高潔性を表す言葉です。改めてそういった捉え方を重視してアンケートの中で問うていくか、ということです。昨今トピックとして挙げられていた内容で、前回調査の時点では明確に出ていなかったところなので、委員のお考えを伺った上で調査項目の中身を設計していきたいと考えて、議論のポイントに挙げさせていただきました。

○委員

ありがとうございます。

○会長

幾つか片仮名言葉が並んでいる言葉だと思うのですが、いろいろな意味で東京オリンピック開催の影響は受けていると思います。その流れの中でスポーツ団体のいろいろなトラブルですとか、一端は指導者の暴力的な指導の問題等もあって、今スポーツ界の課題として挙がっています。

そのほかいかがでしょうか。もうこの辺りは皆さんのいろいろなお立場からいろいろなご意見を頂ければと思います。

○委員

先ほどeスポーツ等ありましたけれども、ウォーキングとかジョギングというものをスポーツと捉えていない人が多いですね。このあたりのことを市民が理解しているか微妙ではないでしょうか。このところが決まってくると、多分実施の基礎人口がもっと上がると思います。eスポーツもそうですけれども、ウォーキング・ジョギングの取扱いについて考えていただけたらと思います。

○会長

恐らく項目としてはウォーキング、ジョギングは含むと思うのですが、市民の方がそれをスポーツと捉えてないのではないかというご意見だと思います。

これはやはりスポーツというもののイメージと関わっていますよね。先ほどの基本計画の話にもあったのですが、何かスポーツというのはすごく堅苦しくて、歯を食いしばって、根性を出してやらなくてはいけない固いイメージがあるので、もっと柔らかくて自分のペースに合わせてやっていいものというような、そういう意識の改革もやっていく。

○委員

いろいろな方とお話をしていると、スマホのアプリで万歩計を入れている方が多いです。意識はしているので、スポーツの生活化というと、ウォーキングを入れると生活に直結すると思います。うまく何か引き出してあげたら、すばらしい数値が出ると思います。

○会長

創建から何か。

### ○株式会社創建

今、委員から頂いたご意見、一旦事務局の中でも話題に挙げさせていただいたのですが、調査票のどんなスポーツをしましたかという選択肢の、資料上部に、この調査におけるスポーツの定義を書かせていただいております。府中市としては現時点ではウォーキングやジョギングなど手軽にできる運動というのもスポーツとして認識しているということを示されていて、これが伝わっているかどうかというご指摘だと思いますので、調査票のほうで選択肢を選ぶ少し上のところに、参考という形で「府中市ではウォーキング、ジョギング、そういったものもスポーツに捉えています」という定義をちょっと事前にインプットした上で回答していただくような、調査票の設計はやっていけると良いかと考えます。

### ○会長

調査票の展開として初めにスポーツというのをどういうふうイメージするか、その書き方というのも回答に関わってくると思います。うまく調整していただきたいと思います。

そのほかいかがでしょうか。何点かポイントがあります。まずは対象についてですね。事務局から提案がありました市民2,000人、そして小学5年生と中学校2年生それぞれ600人。これは小学校5年生、中学校2年生は恐らく国がやっている体力に関する調査の対象ということと共通しておるかと思えます。

2点目は、スポーツの項目として、今ウォーキングの話もありましたけれども、若者向けのeスポーツとかアーバンスポーツ、都会でやるような今までのスポーツとはちょっとイメージが違うスポーツを含めて検討していったらどうだろうかということです。

3番目は、今ありました「インテグリティ」という項目についての内容。

4番目が、基本的理念、基本視点に変更があるかないか。

5番目ですね。今般の新型コロナウイルスの影響。これをどこに入れ込むかはこの後検討が必要かと思うのですけれども、逆に言うとこれは外せないです。相当市民の方の行動が変わっているかと思えます。その点を入れるかということに関して、論点になります。その他のご質問を含めてでも結構です。ご意見を頂きたいと思えます。

### ○事務局

会長、よろしいでしょうか。若干補足をさせていただければと思います。

先ほど小学校5年生600人、中学2年生600人ということでお諮りしたところなのですが、ちなみに今年度の府中市内の小学5年生の人数ですが2,290名になっております。中学2年生につきましては1,974人在籍しています。こちら男女合わせてで、かつ、特別支援級の生徒数については入っておりません。

それと無作為抽出、市民2,000人というところですが、無作為といいましてもあまり数値に偏りが起こらないよう、なるべく答えが偏らないような工夫ができればと思っております。創建とも相談しながら工夫をしていきたいと考えております。

それと2点目についての補足です。東京都でもスポーツとレクリエーションという考え方を使い分けており、もう少しスポーツよりも軽い印象を受けるといいですか、市民が受け入

れやすいイメージにもなってくるのかなと考えております。現計画の中でもそういった部分、記載がございますので、そういったフォローがあると良いかと考えているところです。

それと3点目の補足ですが、先ほど創建からもあったように、今、非常にスポーツ社会の中で課題になっているところです。会長のご専門の分野のお話にも少し関わってくるのかなと思っておりますので、もしよろしければ後ほど少し参考になるようなお話がいただければと思っております。

それと4点目の基本理念、基本視点につきましては、府中市といたしましては、今までこの「スポーツタウン府中」というところを柱に考えてきておりましたので、大きく変更するということは考えておりませんが、皆様からまたご意見を頂戴できればと思います。

最後に新型コロナウイルスの新しい生活様式につきましては、これは国や東京都、いろいろなところからも発出されているものなので、この新しい生活様式がそもそもどんな内容のものなのか、皆さんも詳しく多分知らない部分もあるかと思えます。もし必要であれば今後資料等をお送りさせていただいた中で、検討を進められればと思うのですけれども、先ほど会長おっしゃっていただいたように、取り入れざるを得ない状況なのではないかと市としても考えているところでございます。

#### ○会長

今の補足説明も加えていかがですか。何かご質問ございますか。

あまり会長がしゃべるのもよくないのではないかと思いますのですけれども、実は今日の会議の前に少し事務局とも相談しまして、例えばこの1番のアンケートの実施についてですけれども、無作為なのだけれども、例えば性別とか年齢層とか居住地、なるべく偏らないような形でやっていくということを伺いました。実は2,000人を対象にするとは言ったのですけれども、2,000人が回答をしてくださるとは限らないかと思えます。実際の回答率は、最近の傾向は3割から4割くらいです。ですので、実際回答してくださるのは600人から800人くらい。1,000人は恐らく切るのではないかと思います。さらにそれを分析していきますと、例えば性別に分けて、年齢層に分けて、居住地に分けてとなっていくと、例えば男性の30歳代のここに住んでいる方というのは、もう10人くらいになってしまうという事情もあります。その中でいろいろ検討をしていくしかないのです。

そんなところは、アンケートの紙をお送りして回答していただくということを考えているということです。ただし、このコロナの影響を受けて、そういう何か物を送られてくるのも嫌だというような雰囲気もあります。

あと、最近ネットでの調査というのかなり一般的になってきました。それにも幾つかタイプがありまして、業者にモニターとして登録している人に答えてもらうタイプというものもありますし、あとは今回、アンケートをお送りするときに、アンケート用紙も送りながら、例えばですけれども、オンライン上でも回答できるような設定をしておいて、アンケートにQRコードなんかをつけて、スマートフォン等で答えはそちらのほうから回答してくださいとお願いすると、少しでも回収率を上げることができるかもしれません。そういった工夫はこの後事務局でも、また創建と相談して進めていただこうという話を先ほどしておりました。

○委員

府中市といたしまして、協働というキーワードがございましたが、これの関わりのアンケート項目のようなものを作りたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○会長

協働ということですか。

○委員

協働です。協力の「協」に働く。あの単語は非常に重要なキーワードです。市はどの部分を意識されているか、いかがでしょうか。

○会長

協働について何を協働するか、いろいろな見方があると思うのです。これについて事務局とか創建のほうでお考えは何かございますか。

○事務局

府中市全体で市民協働というコンセプトで総合計画はじめいろいろなものが動いているところです。これは市だけの独断ではなく、かといって市民の方の要望だけではなく、皆さんが手を携えて一緒に協力しながら、お互いが主体となって様々な事業、取組を進めていこうという考え方ですので、やはりスポーツの中でも皆さんと協働で行っていくということです。もう既に行っている分野もあるのですけれども、例えば民間のトップチームとの事業を協力してやるというのも、市民協働の一環ですし、ボランティアですとかそういうのも、捉え方によっては協働を進めていただいているところもあります。今回現行計画の体系図の中にもそれに関連した項目もありますので、今後検討した中で、どのあたりに入れるかは別にして、計画自体には入れていきたいと考えています。それをアンケートの中に、どう絡めていくかということについては、持ち帰り、検討させていただければと考えております。

○会長

創建のほうからお願いします。

○創建

まだ事務局と詰められてないので私見になってしまい、ご説明の前になるかと思うのですが、資料5の2の2ページ目のところです。18番辺りで、今、府中市からもご説明がありましたが、協働について問う設問はどこかとなったときに、今、思い浮かんだのは支えるスポーツに関わったことがあるかということです。例えば選択肢の中なのか、また支えるスポーツに取り組んだことを協働と捉えるのかについて、設問の聞き方にするのか、選択肢になるのかというのはあるのですが、おっしゃられたところというのは、ボランティアになるのか、トップチームを応援するイベントに参加する、イベント企画する、手伝うという形が該当となるかということだと思います。細かいところはまだ調整する必要があるかなと思います

が、支えるスポーツという文面の中で、協働という考え方をに入れていけるといいかと思ったのですが、いかがでしょうか。逆に質問になってしまうのですが、ご意見いただけるとありがたいです。

#### ○会長

アンケートでいうと、支えるスポーツに関する設問です。国のスポーツの捉え方は、国民がスポーツをするという側面、あとは観るという側面、もう1つ支えるという側面、大きく分けてこの3つの側面でいろいろな要素を探ります。今のご意見はその支える部分についてのことでした。

この件に関しまして、府中市は非常に多くトップチームを抱えていらして、感想でもいいのですが何かございますか。

#### ○委員

ちょっと我々の直近の課題の話になってしまうので、この協議会の話とずれてしまうかもしれないのですが、ラグビーのトップリーグは2022年から新しい新リーグを発足する形を目指していて、今、リーグの準備室等々と各チームのトップで、どうやって進めていくべきか話しています。府中市で言うとサントリー、東芝の2チームがあるのですが、スタジアムがないというのが課題です。いわゆる地域に根差したクラブについて事業性を持って運営していくというのが新リーグの基準になってくるのですが、府中市はラグビー以外でも、バスケットボールのアルバルク東京があったり、フットサルの府中アスレティックFCがあったりするので、なかなか公式戦を府中市内で行えるかということ、正直行えていません。立川に拠点を移すことがバスケとかもあるので、何か市民の認識というか、チームはあるのだけど試合を市内で観られないよねというところが、正直チームとしての課題でもあるのですが、何かアンケートでそのきっかけみたいなものをつかめたらいいなと思っています。

#### ○会長

ありがとうございます。トップリーグの編成が変わるということと関わって、今は施設に関してご意見がありました。体育の施設がかなり老朽化しているので、そこの建て替えというの、かなり長いスパンですが、課題になっているということですので、そこの兼ね合いがあります。

ありがとうございます。ほかに何かご意見、ご感想はありますか。

#### ○委員

私は総合型スポーツクラブとして子どもたちに接したり、大人の方と接したりはしているのですが、先ほどありましたeスポーツとかアーバンスポーツというのを、今やり始めている子というか、選手として目指し始めている子どもたちが少し増えてきているというのは、接している中では感じております。新しいジャンルのスポーツとしてのアンケートを取り入れるかという問題についてなのですが、取り入れてみるというのも1つの案で、とて

もいいのではないかなと感じております。

○会長

積極的なご意見をどうもありがとうございます。

スポーツに関わっていらっしゃる立場からいかがですか。

○委員

少し話が変わるかもしれないですけれども、子ども向けの調査の案の一覧のところ、外で遊ぶことが好きかとか、体育の学習が好きか、運動やスポーツをすることが好きかという項目があると思います。この3と4番のところ、ちょうどこの体育とスポーツの違いという内容で講演したりすることもあるので、ちょうど思ったのですが、体育とスポーツの境が分からない子どもたちというのが多いのかなと感じております。このアンケートを取る上でも線引きというか、スポーツを体育でしかない子どもたちが、スポーツを好きとか嫌いという判断を、体育の授業を基準にしてしまう子どもたちがいて、それが結果的にスポーツを嫌いと回答してしまうかもしれません。実はスポーツが嫌いではなくて、体育が嫌いだけという可能性もある等、その辺りで難しいのかと感じました。線引きが明確にできれば、体育とスポーツの違いというのを明確にすることで、アンケートの結果というのも可視化できるのではないのかと感じました。

あと、アンケートのことなのですが、もともと生涯学習センターのスポーツジムで勤務をしていて、トレーニング施設でのお客様対応とかしていたのですけれども、施設内にスポーツジムがあることを知らない市民の方たちが大勢いるなというのを感じていました。アンケート用紙の中にそういった市内でのスポーツ施設や、スポーツイベントの認知度を確かめるものが入ってくると、そこもつなげてスポーツ人口の増加とか、あとはイベントや施設の認知を得るところにもつなげていけるのかと感じました。

○会長

ありがとうございます。体育の教員としては体育嫌いということは、非常に肩身が狭くなることなのですけれども、確かにそうですね。体育嫌いということとスポーツ嫌いということは、少し区分けして考えていく必要があるかもしれません。

この点は今日のメインテーマですので、これに関していかがでしょうか、何かご意見はございますか。

○委員

障害のある方とか、スポーツといっても自分にできるものというのが、昔やっていたものがまたやりたいという方が多いのですが、そういう体になったらちょっとできなくなってしまったりすることもあるとあって、諦めている方とかもいらっしゃいます。eスポーツとかちょっと違うものというのがアンケートに入る等、これならできるかもとか思う方もいらっしゃると思うので、そのスポーツを捉える範囲が結構広くなると、諦めている方もできることがあるのかなと思います。

○会長

ご意見ありがとうございます。先ほど気になったのですが、今のところ調査の対象に特別支援学級が入っていないということなので、障害のある子どもさんが対象の外になってしまいます。けれども障害者のスポーツというのは、先ほどのお話のあった国とか都の計画の中では大きな柱になっていますので、その部分は何らかの方法でケアをして、様子を探る必要があるのではないかなと思います。

○事務局

まずはそのアンケートを行う際に、学校にお願いする中で、どういった体制で受けていただけるかということもあるかと思いますが、教育委員会と調整が必要かと思いますが、ご意見があったことについては検討をしていきたいと思っております。

○会長

特別支援学級等ですと、必ずしもアンケートじゃなくて実際に事例的に様子を伺うような、そういった調査も可能かもしれません。検討をしていただければと思います。

何かご意見はございますか。

○委員

これは実現できたらすごく素晴らしいスポーツタウンになるなと思っておりますが、スポーツの捉え方が、思っているよりももっと幅が狭くなったり、広がっていたりとか、本当に人それぞれなのだろうなと思います。

私は体育館に行くことが多いのですが、毎回イベントを打ち出しても、参加するメンバーが同じ状況です。本当に変わりがなくて、また、今日も来てくれたねという感じなのですが、もうちょっとこれをどんなふうにして増やしていけばいいのかなと思っております。チラシをいくら配っても、それを見ていただけなくて集まるメンバーが同じです。それから参加人数がどんどん減ってくるという感じです。そういうのをそこから何か脱却しなくてはいけないなと思っております。

ラグビー等の公式戦が実施できないというのも本当にもったいない話です。市民球場も、もうちょっと収容人数が多かったら良いなと私は夢みたいなことを考えております。

それから、スポーツと体育の捉え方なのですが、スポーツ、体育というのは、いい思いをしなかったら体育の延長線でスポーツをやらないと思います。やはりいい思いをさせてあげべきだと思います。支援学級では、褒めると、もう乗りに乗って取り組むので、やはり他の子もそうなのではないのかと思います。

○会長

幅広いご意見どうもありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。私も非常にイメージできます。

それでは、その他いかがでしょうか。今、検討をしている要点をまとめますと、まず、ア

アンケートの対象について、事務局から出されています無作為で市民2,000人、小学5年生、中学校2年生で600人ずつの対象で今の段階はよろしいでしょうか。

加えて、新しいジャンルですね。今のところeスポーツ、アーバンスポーツ等となっています。具体的には細かくなってはいなかったと思いますけれども、こういう幅広い捉え方をしていくということによろしいですか。

(「はい」の声)

○会長

続きまして「スポーツ・インテグリティ」という言葉でまとめられますけれども、スポーツ界が抱えている問題ということについての認識を確認します。これについても含めるということによろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○会長

今のところの府中市の基本的理念とか基本視点に変更なしということによろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○会長

最後になります。新しい生活様式、コロナとの関係ですね。これをアンケートの項目に何らかの方法で盛り込んでいく、取り入れるという方向です。これについてもよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

—その他—

○会長

今の事項についての要点をご確認いただきました。

それでは、次にスポーツ推進計画検討協議会の日程について、事務局から説明をお願いいたします。

(※ 事務局にて今後の日程含めた庶務事項確認)

○会長

次回は8月24日の月曜日の午前10時から開催について追って連絡があるということです。

初回でしたけれども、皆様からのご意見を頂いて大変よかったですと思います。

本日はこれで散会することといたします。ありがとうございました。

以上